

査読論文

実習前評価システムに関する一つの考察Ⅷ

杉本大輔・櫻井美帆子・大島康雄

要約

本学社会福祉学科で毎年実施している実習前評価システム OSCE の 2023 年度の実施結果との分析, 及び分析から導き出された本学のソーシャルワーク演習における教育課題, 及び 3 年次以降の実習教育課題について考察する。

本稿では本学社会福祉学科が毎年実施している実習前評価システム OSCE の 2023 年度の実施結果とその分析, 及び分析から導き出される本学 2 年時におけるソーシャルワーク演習における教育課題, 及び 3 年次以降のソーシャルワーク実習教育における課題を考察する。2021 年度より新カリキュラムが導入されてから, 2 年目の実習前評価システムの実施となったが, 前年度より, 本学前期第 2 クォーター「ソーシャルワーク演習 I」(金曜日 1・2 講)内における実施となり¹, より教育内容と近接する時期の実施となり, 面接技法習得における, 演習内容との, より密接な実施となった。そのため, 教員にとっては演習内容の理解度を把握するためのツールとして, また, 学生にとっては自己の演習内容の習熟度, 及び, より実践に近づいた場面における学習内容の表出方法の自己覚知につながる顕在的機能を持つに至ったと考えている²。

1, 2023 年度星槎道都大学社会福祉学部実習前評価システム OSCE 実施要領

本年 6 月 30 日の「ソーシャルワーク演習 I」において, 本年度の実習前評価システム OSCE の実施概要を当該科目を受講している本学 2 年生にアナウンス。実施日は 7 月 28 日。当該科目は 3 グループ (それぞれ A, B, C が担当) 各グループとも面接技法については 6 月中に終了しており, 面接技法の復習には十分な期間をもって臨んだ。6 月 30 日のアナウンス時に評価者評価と利用者評価の評価内容を記したシートを学生に配布, 面接

場面は例年通り「地域包括支援センターにおけるインテーク面接」。面接時間は 5 分間。当日は B が利用者役。A は評価者として全学生に当該面接を実施, 面接までの待ち時間に C が面接技法に関する復習を兼ねた映像学習を実施した。また, 評価者評価, 利用者評価の結果は, 翌週 8 月 4 日の当該科目の時間内に各グループ担当の教員により学生に返却し, 学生個々人の自己覚知を促す取り組みを行った。なお, 実施日の 7 月 28 日には早々にコロナが 5 類になっていることを考え, 昨年度のようなアクリル板, 及びマスクなどの配慮は行わなかった。

評価者評価（5段階）

1, クライアントを迎え入れる態度	言葉	5	4	3	2	1
	動作	5	4	3	2	1
2, 椅子の勧め方	仕種	5	4	3	2	1
	どちらが先に座るか	5	4	3	2	1
3, 対面位置のとり方		5	4	3	2	1
4, 初めのあいさつ	言葉	5	4	3	2	1
5, 自己紹介	所属	5	4	3	2	1
	職名	5	4	3	2	1
	役割	5	4	3	2	1
6, 倫理的配慮	守秘義務の伝達	5	4	3	2	1
	メモを取ることに断り	5	4	3	2	1
7, 主訴の聞き	切り出し方	5	4	3	2	1
8, 質問方法の的確さ（閉ざされた質問・開かれた質問）		5	4	3	2	1
9, 身体技法	うなずき	5	4	3	2	1
	手や足を組んでいないか	5	4	3	2	1
10, 視線	相手の目を見ているか	5	4	3	2	1
	きょろきょろしていないか	5	4	3	2	1
	相手の動きを追っているか	5	4	3	2	1
11, 声音の様子	明確さ	5	4	3	2	1
	速さ	5	4	3	2	1
	抑揚	5	4	3	2	1
12, 主訴の要約は的確であったか		5	4	3	2	1

利用者評価（5段階）

1, クライアントは気持ちよく迎えられたか	5	4	3	2	1
2, クライアントはワーカーの役割をよく理解できたか	5	4	3	2	1
3, クライアントは滑らかに相談関係に入れたか	5	4	3	2	1
4, クライアントは相談事を十分に聞かれたと感じたか	5	4	3	2	1
5, クライアントは相談事を十分に話したと感じられたか	5	4	3	2	1
6, クライアントは相談事を十分に理解されたと感じられたか	5	4	3	2	1

得点の評価内容

- 5…非常によくできている
- 4…よくできている
- 3…できている
- 2…あまりできていない
- 1…全くできていない

2, 記述統計

評価者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
迎え入れる態度 言葉	34	2.00	3.00	5.00	4.0882	.71213	.507
迎え入れる態度 動作	34	3.00	2.00	5.00	4.0294	.79717	.635
椅子の勧め方 言葉	34	3.00	2.00	5.00	4.0000	.81650	.667
椅子の勧め方 仕種	34	3.00	2.00	5.00	4.0588	.85071	.724
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	34	4.00	1.00	5.00	4.4412	1.18555	1.406
対面位置のとり方	34	4.00	1.00	5.00	4.5294	1.30814	1.711
初めのあいさつ 言葉	34	2.00	3.00	5.00	4.4412	.74635	.557
自己紹介 所属	34	4.00	1.00	5.00	4.2941	1.38234	1.911
自己紹介 職名	34	4.00	1.00	5.00	4.3824	1.20641	1.455
自己紹介 役割	34	4.00	1.00	5.00	3.2059	1.68378	2.835
倫理的配慮 守秘義務の伝達	34	4.00	1.00	5.00	3.9118	1.52490	2.325
倫理的配慮 メモを取ることに断り	34	4.00	1.00	5.00	3.7941	1.71940	2.956
主訴の聞き取り 切り出し方	34	3.00	2.00	5.00	4.0882	.93315	.871
質問の方法の的確さ	34	4.00	1.00	5.00	3.0000	.98473	.970
身体技法 傾聴の姿勢	34	2.00	3.00	5.00	4.5000	.70711	.500
身体技法 うなずき	34	2.00	3.00	5.00	4.3824	.65202	.425
身体技法 手や足を組んでいないか	34	1.00	4.00	5.00	4.8824	.32703	.107
視線 相手の目を見ているか	34	2.00	3.00	5.00	4.5294	.61473	.378
視線 きよろきよろしていないか	34	2.00	3.00	5.00	4.6471	.64584	.417
視線 相手の動きを追っているか	34	2.00	3.00	5.00	4.6471	.59708	.357
声音の様子 明確さ	34	4.00	1.00	5.00	3.3235	1.34211	1.801
声音の様子 速さ	34	4.00	1.00	5.00	3.3235	1.34211	1.801
声音の様子 抑揚	34	4.00	1.00	5.00	3.1471	1.32876	1.766
主訴の要約は的確であったか	34	3.00	1.00	4.00	2.0294	.93696	.878
有効なケースの数 (リストごと)	34						

平均値の比較を見ると、全員が最高値の5.00の項目は一つもない。例年、高得点を出す「手や足を組んでいないか」は、今年は4,8824、昨年度は4,9643、最小値は昨年度同様4.00であるが、昨年度より平均値が減少していることを考えると、度数的には最大値である5.00を獲得している学生が減少していることになる³。当該項目は一昨年度まで平均値は5.00、つまり受講学生全員が満点だったことを考えると、基本的な面接技法における学習理解の格差が如実に表れてきていると考えられる。平均値4.5000以上の項目は「対面位置のとり方」が4.5294、「身体技法 傾聴の姿勢が」が4.5000、「視線 相手の目を見ているか」が4.5294、「視線 きよろきよろしていないか」が4.6471、「視線 相手の動きを追っているか」が4.6471、と、先ほどの「手や足を組んでいないか」を加えて計6項目、昨年度の8項目に比

べて2項目マイナスである。また、昨年度、高得点を出した項目は、全項目の中に広く分布していたのに対し、今年度は身体技法、特に「視線」に関する項目に集中していた。本学が実習前評価システムを施行して10年になるが、施行当初は身体技法に高得点が集中していたが、数年を経て、他の項目でも高得点を出すようになった。身体技法は面接の基本技法として比較的、学習・習得が容易な技法である。そういった項目に高得点が集中すると同時に、具体的な質問技法に関する項目の得点は低い。「質問方法の的確さ」が3.0000(最大値5.00 最小値1.00)、「主訴の要約は的確であったか」が2.0294(最大値4.00 最小値1.00)であった。当該項目の昨年度の結果は「質問方法の的確さ」が2.8571(最大値5.00 最小値1.00)、「主訴の要約は的確であったか」が2.2500(最大値5.00 最小値1.00)と前者の項目が若干ポイ

ントを伸ばし、後者の項目が同じく若干ポイントを減らしている。他にも、昨年度平均値が4.5000以上であった「倫理的配慮 メモを取ることの断り」が今年度は3.7941と大幅にポイントを下げている。平均値が4.0000以上の項目は「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「初めのあいさつ言葉」「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「主訴の聞き取り 切り出し方」「身体技法 うなずき」であり、平均値4.5000以上を加えて16項目、昨年度の17項目より1項目減少している。また、

昨年度同様に「声音の様子 明確さ」が3.3235、「声音の様子 速さ」が同じく3.3235、「声音の様子 抑揚」が3,1471と低いポイントとなっている。昨年度の各々の項目のポイントは、それぞれ、3.1071, 3.2143, 3.0000である。本年度は昨年度よりも若干点数が上がっているが、昨年度がコロナ対策から面接者と利用者の方にアクリル板を設置していたことを考慮すると⁵、学生個人に面接場面、引いては面接技法習得に関して何らかのバイアスがかかっていたことも考えられる。質問技法の点数の低下と関連させて、分析課題である⁵。

利用者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
気持ちよく迎えられたか	34	4.00	1.00	5.00	4.7353	.79043	.625
ワーカーの役割をよく理解できたか	34	4.00	1.00	5.00	3.8235	1.19267	1.422
滑らかに相談関係に入れたか	34	4.00	1.00	5.00	3.6765	1.42957	2.044
相談事を十分に聞かれたと感じられたか	34	4.00	1.00	5.00	3.3824	1.47740	2.183
相談事を十分に話したと感じられたか	34	4.00	1.00	5.00	3.2353	1.47830	2.185
相談事を十分に理解されたと感じられたか	34	4.00	1.00	5.00	3.3235	1.42957	2.044
有効なケースの数 (リストごと)	34						

利用者評価においては昨年度に比べて顕著な違いが見られた。「気持ちよく迎えられたか」の平均値が4.7353(昨年度3.9643)と大幅にポイントアップしている。分散0.625という数値を見ても点数にさほどのバラツキがないことがわかる。しかしながら、他の項目は「ワーカーの役割をよく理解できたか」が平均値3.8235分散1.422(昨年度 平均値3.7857分散0.545)「滑らかに相談関係に入れたか」平均値3.6765分散2.044(昨年度平均値3.6786分散0.597)「相談事を十分に聞かれたと感じたか」平均値3.3824分散2.183(昨年度 平均値3.1786分散0.597)「相談事を十分に話したと感じられたか」平均値3.2353分散2.185(昨年度 平均値3.2857分散0.582)「相談事を十分に理解されたと感じられたか」平均値3.3235分散2.044(昨年度 平均値2.9286分散0.661)⁷。「気持ちよく迎えられたか」以外の項目は平均値においては「相談事を十分に理解されたと感じら

れたか」以外は大きな差はないが、分散は昨年度に比べて大きい。これは「気持ちよく迎えられたか」以外の項目は、今年度は点数のバラツキが大きいことを示している。上記の評価者評価の結果と合わせて考察すると、今年度は身体技法の取得が優先されて、具体的な質問技法、特にバーバルな面接技法の習得に課題を残したと言える⁸。

3. 因子分析

今回のOSCE実施においては全項目間における共通性を見いだせた。よって、全項目を因子分析の対象として因子抽出を行った。なお、分析方法は昨年度同様、主因子法を用いた⁹。

表1 KMO および Bartlett の検定

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度		.610
Bartlett の球面性検定	近似カイ 2 乗	691.042
	自由度	276
	有意確率	.000

表2 共通性

	初期	因子抽出後
迎え入れる態度 言葉	.885	.920
迎え入れる態度 動作	.864	.787
椅子の勧め方 言葉	.943	.819
椅子の勧め方 仕種	.949	.900
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.861	.548
対面位置のとり方	.672	.400
初めのあいさつ 言葉	.776	.531
自己紹介 所属	.914	.699
自己紹介 職名	.861	.709
自己紹介 役割	.709	.349
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.747	.450
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.851	.450
主訴の聞き取り 切り出し方	.864	.620
質問の方法の的確さ	.822	.635
身体技法 傾聴の姿勢	.927	.902
身体技法 うなずき	.858	.649
身体技法 手や足を組んでいないか	.628	.271
視線 相手の目を見ているか	.843	.706
視線 きょろきょろしていないか	.917	.858
視線 相手の動きを追っているか	.919	.829
声音の様子 明確さ	.976	.975
声音の様子 速さ	.972	.949
声音の様子 抑揚	.980	.936
主訴の要約は的確であったか	.916	.799

因子抽出法：主因子法

主因子分析により今年度の OSCE 実施結果を分析した。表1の「Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度」は0.610と、0.500以上であることから、因子分析実施の意味があると判断した。表2の共通項目の因子抽出後の数値により、全24項目が全て因子分析に関与すると判断した。表3の24項目の相関係数行列の固有値は、8.597, 3.199, 2.259, 1.725, 1.542, 1.156, と減数し、第6因子までの累積説明率が76.994%であった。これにより6因子解を採用することにした。6因子の離席分散説明率は69.544%である。

表5により、第1因子は「声音の様子 明確さ」「声音の様子 抑揚」「声音の様子 速さ」「主訴の要約は的確であったか」「質問方法の的確さ」「身体技法 うなずき」、第2因子は「視線 きょろきょろしていないか」「視線 相手の動き右を追っているか」「視線 相手の目を見ているか」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「身体技法 手や足を組んでいないか」、第3因子は「自己紹介 職名」「自己紹介 所属」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「主訴の聞き取り 切り出し方」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「自己紹介 役割」、第4因子は「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」、第5因子は「身体技法 傾聴の姿勢」「初めのあいさつ 言葉」、第6因子は「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 言葉」「対面位置のとり方」となった。

表3 説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	8.597	35.823	35.823	8.379	34.914	34.914	4.288	17.865	17.865
2	3.199	13.329	49.152	2.903	12.096	47.011	3.155	13.147	31.012
3	2.259	9.412	58.564	2.044	8.516	55.527	2.835	11.811	42.823
4	1.725	7.186	65.750	1.421	5.922	61.449	2.527	10.531	53.354
5	1.542	6.425	72.176	1.137	4.737	66.187	2.144	8.933	62.286
6	1.156	4.818	76.994	.806	3.358	69.544	1.742	7.258	69.544
7	.953	3.970	80.964						
8	.824	3.435	84.399						
9	.623	2.598	86.997						
10	.570	2.373	89.371						
11	.511	2.127	91.498						
12	.493	2.055	93.552						
13	.394	1.640	95.192						
14	.344	1.432	96.624						
15	.203	.846	97.470						

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
16	.184	.768	98.238						
17	.128	.535	98.773						
18	.095	.395	99.169						
19	.063	.263	99.431						
20	.049	.203	99.634						
21	.038	.160	99.795						
22	.022	.093	99.888						
23	.016	.067	99.955						
24	.011	.045	100.000						

因子抽出法：主因子法

表4 因子行列^a

	因子					
	1	2	3	4	5	6
椅子の勧め方 言葉	.766	.060	-.299	.056	-.319	-.184
身体技法 傾聴の姿勢	.763	.232	-.097	.114	.492	-.030
身体技法 うなずき	.740	-.127	.031	.085	.277	-.027
椅子の勧め方 仕種	.739	.165	-.416	.089	-.316	-.213
声音の様子 速さ	.737	-.420	.466	-.021	-.023	-.108
主訴の要約は的確であったか	.730	-.495	.074	.052	-.056	.100
声音の様子 抑揚	.710	-.443	.467	-.003	-.094	-.094
声音の様子 明確さ	.704	-.437	.524	-.104	-.041	-.051
迎え入れる態度 言葉	.669	-.328	-.416	-.005	.033	.436
視線 相手の動きを追っているか	.656	.370	-.066	-.490	.125	.038
迎え入れる態度 動作	.627	-.252	-.456	.062	.008	.344
視線 きよろきよろしていないか	.626	.419	.068	-.529	.066	.030
主訴の聞き取り 切り出し方	.616	.401	.001	.204	-.049	.187
視線 相手の目を見ているか	.581	.183	.052	-.568	-.066	-.072
質問の方法の的確さ	.575	-.518	-.049	.131	-.079	.100
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.571	.358	-.232	-.078	-.032	-.182
自己紹介 所属	.515	.409	.416	.257	.156	.054
対面位置のとり方	.433	-.131	-.315	.001	-.056	-.306
初めのあいさつ 言葉	.396	-.026	-.287	.330	.366	-.220
自己紹介 職名	.422	.480	.325	.415	.120	-.095
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.264	.438	.142	.129	-.310	.237
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.175	.396	.345	.074	-.308	.209
自己紹介 役割	.328	.391	-.016	.257	-.134	.069
身体技法 手や足を組んでいないか	-.092	.062	.087	-.171	.427	.198

因子抽出法：主因子法

a. 6個の因子が抽出されました。11回の反復が必要です。

表5 回転後の因子行列^a

	因子					
	1	2	3	4	5	6
声音の様子 明確さ	.959	.201	.084	.078	.025	.024
声音の様子 抑揚	.939	.125	.105	.092	.060	.125
声音の様子 速さ	.938	.169	.099	.084	.121	.090
主訴の要約は的確であったか	.727	.088	.019	.464	.132	.173
質問の方法の的確さ	.582	-.048	-.051	.483	.120	.210
身体技法 うなずき	.495	.255	.139	.293	.482	.036
視線 きよろきよろしていないか	.147	.867	.273	.069	.071	-.016
視線 相手の動きを追っているか	.109	.846	.210	.175	.163	.011
視線 相手の目を見ているか	.261	.782	.082	.061	-.038	.119
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	-.004	.496	.262	.118	.315	.347
自己紹介 職名	.157	.054	.685	-.193	.419	.012
自己紹介 所属	.288	.177	.673	-.097	.326	-.129
倫理的配慮 守秘義務の伝達	-.029	.135	.629	.069	-.142	.105

	因子					
	1	2	3	4	5	6
主訴の聞き取り 切り出し方	.099	.264	.628	.263	.246	.125
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.068	.107	.608	-.086	-.238	.003
自己紹介 役割	-.052	.087	.524	.087	.153	.183
迎え入れる態度 言葉	.271	.186	.000	.880	.160	.104
迎え入れる態度 動作	.191	.152	.027	.806	.208	.185
身体技法 傾聴の姿勢	.219	.412	.295	.262	.725	-.050
初めのあいさつ 言葉	.071	-.011	.001	.187	.683	.156
椅子の勧め方 仕種	.105	.359	.261	.337	.280	.707
椅子の勧め方 言葉	.246	.345	.238	.332	.223	.650
身体技法 手や足を組んでいないか	-.071	.131	-.075	.013	.106	-.481
対面位置のとり方	.161	.194	-.131	.176	.293	.451

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法^a

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

表 6 因子変換行列

因子	1	2	3	4	5	6
1	.558	.466	.338	.392	.358	.273
2	-.572	.389	.649	-.296	.113	-.023
3	.592	-.075	.344	-.548	-.240	-.409
4	-.003	-.781	.430	.065	.414	.169
5	-.040	.091	-.243	-.017	.698	-.666
6	-.095	-.082	.320	.674	-.376	-.535

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

因子の解釈

第 1 因子

「声音の様子 明確さ」「声音の様子 抑揚」「声音の様子 速さ」「主訴の要約は的確であったか」「質問方法の的確さ」「身体技法 うなずき」



面接主要技法

第 2 因子

「視線 きょろきょろしていないか」「視線 相手の動きをおっているか」「視線 相手の目を見ているか」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「身体技法 手や足を組んでいないか」



面接開始後のノンバーバル技法

第 3 因子

「自己紹介 職名」「自己紹介 所属」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「主訴の聞き取り 切り出し方」

「自己紹介 役割」



面接開始後のバーバル技法

第 4 因子

『迎え入れる態度 言葉』『迎え入れる態度 動作』



迎え入れる態度

第 5 因子

「身体技法 傾聴の姿勢」「初めのあいさつ 言葉」



信頼関係構築技法

第 6 因子

「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 言葉」「対面位置のとり方」



面接開始時のポジショニング

第1因子は「声音の様子 明確さ」「声音の様子 抑揚」「声音の様子 速さ」「主訴の要約は的確であったか」「質問方法的確さ」「身体技法 うなずき」であり、実際の面接の中核に関わる質問技法のバーバル・ノンバーバルの両方の要因を含んでいることから、面接主要技法とした。第2因子は「視線 きよろきよろしていないか」「視線 相手の動きを追っているか」「視線 相手の目を見ているか」「椅子の勧め方 どちらがさきに座るか」「身体技法 手や足を組んでいないか」など、面接開始後の身体的な技法に特化されているので面接開始後のノンバーバル技法とした。第3因子は「自己紹介 職名」「自己紹介 所属」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「主訴の聞き取り 切り出し方」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「自己紹介 役割」など、面接開始後の言語的技法に特化されていることから、面接開始後のバーバル技法、とした。第4因子は「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」というクライアントを迎え入れる態度に特化していることから、迎え入れる態度、とした。第5因子は「身体技法 傾聴の姿勢」「初めのあいさつ 言葉」という、面接を始めるにあたり、相手との信頼関係を構築する技法に特化していると考え、信頼関係構築技法、とした。第6因子は「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 言葉」「対面位置のとり方」など。面接開始時における面接者とクライアントの位置取りについての因子に特化していることから、面接開始時のポジショニング、とした。

4, 分析

昨年度の抽出因子は項目数が17項目であったこともあり、「面接主要技法」「言語的技法」「信頼関係形成」「倫理的配慮」「対人配慮」という5因子が抽出されたが、今年度は「面接主流技法」「面接開始後のノンバーバル技法」「面接開始後のバーバル技法」「迎え入れる態度」「信頼関係構築技法」「面接開始時のポジショニング」の6因子が抽出された。全体的には、昨年同様、身体技法と面接

中核技法の関連性を示す因子が抽出されたことから、学生全体が身体技法と面接中核技法とを分離して考えておらず、一つの面接を進行させるうえでの重要技法として総合的に捉えている傾向が昨年同様見られたと考える。記述統計においては質問技法の平均値が低下していたが、抽出された因子から考えると、学習課題としては身体技法との関連はそう弱まっていないことが分かった。一昨年(2021年)までのOSCE実施においては、身体技法と面接中核技法の関連が強い年と弱まった年とが、明確に分かれていたが、昨年以来、この二つの技法が関連して抽出因子として検出されていることから、「ソーシャルワーク演習I」の開講時間内に行うことによって、二つの技法が分離せず、統一された面接技法としての課題として抽出されることがわかった。2021年度より新カリキュラムが施行され、本年度は最初のソーシャルワーク現場実習への配属が始まった。昨年度、今年度のOSCEの実施結果によって、「ソーシャルワーク演習」の時間内におけるOSCE実施の効果が徐々に明確になってきていると考える。構造化された面接におけるソーシャルワーク技法は、実践場面のソーシャルワーク技法の基本ともいえる。ゆえに、統合された面接技法、身体技法と面接中核技法との乖離のない面接技法の学習は今後とも重要視されるべきだと考える。

5, 今後の展望

新カリキュラムにおける実践現場における実習は240時間、すなわち、本学においては180時間実習1カ所、60時間実習1カ所の計2カ所実習が義務付けられる。2カ所実習における実習課題の達成度をすり合わせ、ソーシャルワーク実習の達成度及び評価を緻密につき合わせ、学生の実習達成度の精度をあげることが日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロックの今後の課題となる。本来の実習前評価システムの機能は、学生を実習に出すための選抜システムである。ゆえに、この機能のもとに当該システムを実施している養

成校は、第1回目の実習に学生を出す数か月前に当該システムを実施し、実習に出す出さないの選抜機能として、当該システムを実施する。ゆえに、この機能のもとに当該システムを実施している養成校にとっては、第2回目の実習に出すための選抜として当該システムを実施するか、しないか、あるいは、別の方法を模索するか、が直近の課題となっている。もとより、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロックのすべての養成校が、この機能のもとに当該システムを実施しているとは限らない。本学のように、カリキュラム上の事情から変則的に実施している養成校も多々ある。それらの養成校においても今後の実習前評価システム実施においては様々な課題が浮上するであろう。本学においては、当該システム実施は2年時における、ソーシャルワーク演習における学習課題の抽出、さらに言えば、ソーシャルワーク現場実習に出すにあたり、克服すべき課題の抽出とその克服を目的に実施してきた。来年度で新カリキュラムになって3度目の実施となる。したがって、本学における当該システムをめぐっての今後の展望の一つ目は、来年度において、過去3年間の総括と記述統計、探索的分析、因子分析の比較分析である。同一環境による実施が3年続い

たとえれば、その比較分析は必須である。それにより、2年時のソーシャルワーク演習における面接技法、ひいてはソーシャルワーク技法の学習課題の総合的な分析につながるものとする。

註記)

- 1, 「実習前評価システムに関する一つの考察Ⅶ」杉本大輔・櫻井美帆子・畠山明子 星槎道都大学研究紀要第4号 2023年 p37
- 2, 昨年度までの懸念材料であったコロナ禍の影響も全く払しょくできたとは言えないが、少なくとも本年度の社会福祉学科2年生は入学時より全ての講義を対面で行ってきており、少なくとも本学入学時以降におけるコロナ禍の影響は少ないと考える。
- 3, 杉本, 櫻井, 畠山「前掲論文」p39
- 4, 杉本大輔 上原正希「実習前評価システムに関する一つの考察」星槎道都大学研究紀要第2号 2022年
- 5, 杉本, 櫻井, 畠山「前掲論文」p39
- 6, 例年通り、評価者評価の探索的分析を表示する。昨年度よりの新カリキュラム化の講義展開により、さらに継続してデータを収集し、3年目をめどに総合的な分析に使用したい。

処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
迎え入れる態度 言葉	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
迎え入れる態度 動作	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
椅子の勧め方 言葉	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
椅子の勧め方 仕種	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
対面位置のとり方	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
初めのあいさつ 言葉	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
自己紹介 所属	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
自己紹介 職名	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
自己紹介 役割	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
倫理的配慮 守秘義務の伝達	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
倫理的配慮 メモを取ることに断り	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
主訴の聞き取り 切り出し方	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
質問の方法の的確さ	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
身体技法 傾聴の姿勢	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
身体技法 うなずき	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
身体技法 手や足を組んでいないか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
視線 相手の目を見ているか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
視線 きよろきよろしていないか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
視線 相手の動きを追っているか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
声音の様子 明確さ	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
声音の様子 速さ	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
声音の様子 抑揚	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
主訴の要約は的確であったか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%

記述統計

		統計量	標準誤差	
迎え入れる態度 言葉	平均値	4.0882	.12213	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.8398	
		上限	4.3367	
	5%トリム平均	4.0980		
	中央値	4.0000		
	分散	.507		
	標準偏差	.71213		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-.130	.403	
	尖度	-.929	.788	
	迎え入れる態度 動作	平均値	4.0294	.13671
平均値の95%信頼区間		下限	3.7513	
		上限	4.3076	
5%トリム平均		4.0654		
中央値		4.0000		
分散		.635		
標準偏差		.79717		
最小値		2.00		
最大値		5.00		
範囲		3.00		
4分位範囲		1.25		
歪度		-.435	.403	
尖度		-.260	.788	
椅子の勧め方 言葉		平均値	4.0000	.14003
	平均値の95%信頼区間	下限	3.7151	
		上限	4.2849	
	5%トリム平均	4.0327		
	中央値	4.0000		
	分散	.667		
	標準偏差	.81650		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		

		統計量	標準誤差	
	4分位範囲	2.00		
	歪度	-.355	.403	
	尖度	-.512	.788	
椅子の勧め方 仕種	平均値	4.0588	.14590	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.7620	
		上限	4.3557	
	5%トリム平均	4.0980		
	中央値	4.0000		
	分散	.724		
	標準偏差	.85071		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	-.430	.403	
	尖度	-.695	.788	
	椅子の勧め方 どちらが先に座るか	平均値	4.4412	.20332
		平均値の95%信頼区間	下限	4.0275
上限			4.8548	
5%トリム平均		4.6013		
中央値		5.0000		
分散		1.406		
標準偏差		1.18555		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		-2.344	.403	
尖度		4.575	.788	
対面位置のとり方		平均値	4.5294	.22434
		平均値の95%信頼区間	下限	4.0730
	上限		4.9858	
	5%トリム平均	4.6993		
	中央値	5.0000		
	分散	1.711		
	標準偏差	1.30814		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-2.484	.403	
	尖度	4.430	.788	
	初めのあいさつ 言葉	平均値	4.4412	.12800
		平均値の95%信頼区間	下限	4.1808
上限			4.7016	
5%トリム平均		4.4902		
中央値		5.0000		
分散		.557		
標準偏差		.74635		
最小値		3.00		
最大値		5.00		

		統計量	標準誤差	
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-.949	.403	
	尖度	-.498	.788	
自己紹介 所属	平均値	4.2941	.23707	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.8118	
		上限	4.7764	
	5%トリム平均	4.4379		
	中央値	5.0000		
	分散	1.911		
	標準偏差	1.38234		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-1.810	.403	
	尖度	1.761	.788	
	自己紹介 職名	平均値	4.3824	.20690
平均値の95%信頼区間		下限	3.9614	
		上限	4.8033	
5%トリム平均		4.5359		
中央値		5.0000		
分散		1.455		
標準偏差		1.20641		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		-2.127	.403	
尖度		3.632	.788	
自己紹介 役割		平均値	3.2059	.28877
	平均値の95%信頼区間	下限	2.6184	
		上限	3.7934	
	5%トリム平均	3.2288		
	中央値	3.0000		
	分散	2.835		
	標準偏差	1.68378		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	4.00		
	歪度	-.183	.403	
	尖度	-1.677	.788	
	倫理的配慮 守秘義務の伝達	平均値	3.9118	.26152
平均値の95%信頼区間		下限	3.3797	
		上限	4.4438	
5%トリム平均		4.0131		
中央値		5.0000		
分散		2.325		
標準偏差		1.52490		
最小値		1.00		

		統計量	標準誤差	
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.25		
	歪度	-1.205	.403	
	尖度	-.130	.788	
倫理的配慮 メモを取ることの断り	平均値	3.7941	.29487	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.1942	
		上限	4.3940	
	5%トリム平均	3.8824		
	中央値	5.0000		
	分散	2.956		
	標準偏差	1.71940		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	3.25		
	歪度	-.915	.403	
	尖度	-1.034	.788	
	主訴の聞き取り 切り出し方	平均値	4.0882	.16003
平均値の95%信頼区間		下限	3.7626	
		上限	4.4138	
5%トリム平均		4.1536		
中央値		4.0000		
分散		.871		
標準偏差		.93315		
最小値		2.00		
最大値		5.00		
範囲		3.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		-.897	.403	
尖度		.141	.788	
質問の方法の的確さ		平均値	3.0000	.16888
	平均値の95%信頼区間	下限	2.6564	
		上限	3.3436	
	5%トリム平均	3.0229		
	中央値	3.0000		
	分散	.970		
	標準偏差	.98473		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	-.405	.403	
	尖度	-.201	.788	
	身体技法 傾聴の姿勢	平均値	4.5000	.12127
平均値の95%信頼区間		下限	4.2533	
		上限	4.7467	
5%トリム平均		4.5556		
中央値		5.0000		
分散		.500		
標準偏差		.70711		

		統計量	標準誤差	
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-1.093	.403	
	尖度	-.076	.788	
身体技法 うなずき	平均値	4.3824	.11182	
	平均値の95%信頼区間	下限	4.1549	
		上限	4.6099	
	5%トリム平均	4.4248		
	中央値	4.0000		
	分散	.425		
	標準偏差	.65202		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-.580	.403	
	尖度	-.557	.788	
	身体技法 手や足を組んでいないか	平均値	4.8824	.05609
平均値の95%信頼区間		下限	4.7682	
		上限	4.9965	
5%トリム平均		4.9248		
中央値		5.0000		
分散		.107		
標準偏差		.32703		
最小値		4.00		
最大値		5.00		
範囲		1.00		
4分位範囲		.00		
歪度		-2.484	.403	
尖度		4.430	.788	
視線 相手の目を見ているか		平均値	4.5294	.10543
	平均値の95%信頼区間	下限	4.3149	
		上限	4.7439	
	5%トリム平均	4.5882		
	中央値	5.0000		
	分散	.378		
	標準偏差	.61473		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-.950	.403	
	尖度	-.018	.788	
	視線 きよろきよろしていないか	平均値	4.6471	.11076
平均値の95%信頼区間		下限	4.4217	
		上限	4.8724	
5%トリム平均		4.7190		
中央値		5.0000		
分散		.417		

		統計量	標準誤差	
	標準偏差	.64584		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-1.665	.403	
	尖度	1.620	.788	
視線 相手の動きを追っているか	平均値	4.6471	.10240	
	平均値の95%信頼区間	下限	4.4387	
		上限	4.8554	
	5%トリム平均	4.7190		
	中央値	5.0000		
	分散	.357		
	標準偏差	.59708		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-1.520	.403	
	尖度	1.424	.788	
	声音の様子 明確さ	平均値	3.3235	.23017
平均値の95%信頼区間		下限	2.8552	
		上限	3.7918	
5%トリム平均		3.3595		
中央値		3.0000		
分散		1.801		
標準偏差		1.34211		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		3.00		
歪度		.002	.403	
尖度		-1.399	.788	
声音の様子 速さ		平均値	3.3235	.23017
	平均値の95%信頼区間	下限	2.8552	
		上限	3.7918	
	5%トリム平均	3.3595		
	中央値	3.0000		
	分散	1.801		
	標準偏差	1.34211		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	3.00		
	歪度	.002	.403	
	尖度	-1.399	.788	
	声音の様子 抑揚	平均値	3.1471	.22788
平均値の95%信頼区間		下限	2.6834	
		上限	3.6107	
5%トリム平均		3.1634		
中央値		3.0000		

		統計量	標準誤差
	分散	1.766	
	標準偏差	1.32876	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	3.00	
	歪度	.291	.403
	尖度	-1.300	.788
	主訴の要約は的確であったか	平均値	2.0294
平均値の95%信頼区間		下限	1.7025
		上限	2.3563
	5%トリム平均	1.9771	
	中央値	2.0000	
	分散	.878	
	標準偏差	.93696	
	最小値	1.00	
	最大値	4.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	.409	.403
	尖度	-.859	.788

7, 杉本・櫻井・畠山「前掲論文」p40

評価者評価同様、データ収集に努め、3年目をめどに比較分析を行っていきたい。

8, 利用者評価の探索的分析は以下のとおりである。

処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
気持ちよく迎えられたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
ワーカーの役割をよく理解できたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
滑らかに相談関係に入れたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
相談事を十分に聞かれたと感じられたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
相談事を十分に話したと感じられたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%
相談事を十分に理解されたと感じられたか	34	100.0%	0	0.0%	34	100.0%

記述統計

		統計量	標準誤差
気持ちよく迎えられたか	平均値	4.7353	.13556
	平均値の95%信頼区間	下限	4.4595
		上限	5.0111
	5%トリム平均	4.8824	
	中央値	5.0000	
	分散	.625	
	標準偏差	.79043	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	.00	

		統計量	標準誤差	
	歪度	-3.781	.403	
	尖度	15.775	.788	
ワーカーの役割をよく理解できたか	平均値	3.8235	.20454	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.4074	
		上限	4.2397	
	5%トリム平均	3.9150		
	中央値	4.0000		
	分散	1.422		
	標準偏差	1.19267		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	-.891	.403	
	尖度	.049	.788	
	滑らかに相談関係に入れたか	平均値	3.6765	.24517
		平均値の95%信頼区間	下限	3.1777
上限			4.1753	
5%トリム平均		3.7516		
中央値		4.0000		
分散		2.044		
標準偏差		1.42957		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		2.00		
歪度		-.643	.403	
尖度		-.885	.788	
相談事を十分に聞かれたと感じられたか		平均値	3.3824	.25337
		平均値の95%信頼区間	下限	2.8669
	上限		3.8978	
	5%トリム平均	3.4248		
	中央値	3.0000		
	分散	2.183		
	標準偏差	1.47740		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	3.00		
	歪度	-.295	.403	
	尖度	-1.292	.788	
	相談事を十分に話したと感じられたか	平均値	3.2353	.25353
		平均値の95%信頼区間	下限	2.7195
上限			3.7511	
5%トリム平均		3.2614		
中央値		3.0000		
分散		2.185		
標準偏差		1.47830		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		

		統計量	標準誤差
	4分位範囲	3.00	
	歪度	-.073	.403
	尖度	-1.399	.788
相談事を十分に理解されたと感じられたか	平均値	3.3235	.24517
	平均値の95%信頼区間		
	下限	2.8247	
	上限	3.8223	
	5%トリム平均	3.3595	
	中央値	3.0000	
	分散	2.044	
	標準偏差	1.42957	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	3.00	
	歪度	-.150	.403
	尖度	-1.327	.788

9. 昨年度の OSCE 実施においては全項目間の共通しえを見出すことができなかった。よって、社会福祉学科2年時の面接技法の学習課題として重視すべき項目を考察し「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「初めのあいさつ 言葉」「質問技 9. 昨年度は全項目間の共通性を見出すことができなかったことから、社会福祉学科2年時における面接技法の学習課題として優先される法的確さ」「迎え入れる態度 動作」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「視線 相手の目を見ているか」「主訴の要約は的確であったか」「主訴の聞き取り 切り出し方」「自己紹介 役割」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「対面位置のと

り方」「身体技法 傾聴の姿勢」「声音の様子 明確さ」「倫理的配慮 メモを取ることに断り」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」の17項目を選択し、因子分析を行った。今年度の OSCE 実施においては、全項目間に共通性が確認されたことにより、そこからの課題抽出を優先させたが、上記17項目の因子分析においても共通性を見出すことができ、そちらの課題抽出も実施した。本稿においては、その結果は掲載しないが、やはり3年をめどに、利用者評価、評価者評価の探索的分析を含めた比較調査のデータとして収集し、別稿において発表することを考えている。

One Study Considered with the Estimwtial System for Social Work Practice Ⅷ

SUGIMOTO Daisuke SAKURAI Mihoko OSHIMA Yasuo

Abstract

In this article, we will report on the results of the 2023 implementation of the social work pre-training evaluation system that our university conducts every year, the results of its analysis, and future prospects. This is the second time the new curriculum has been implemented, but by implementing it within the subject (social work seminar) from last year, the implementation environment has become the same, and by accumulating this, a more comprehensive analysis will be possible. We believe that.